

保谷小教育目標
すすんで学ぶ子
助け合う子
元気な子

保小だより

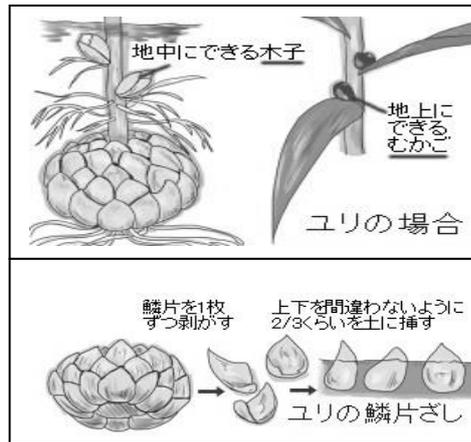


NO. 433・2月号 西東京市立保谷小学校 平成30年1月31日

保谷小ホームページ <http://www.nishitokyo.ed.jp/e-houya/>

しっかり育つまで 「ゆっくり」待ちましょう

副校長 博多 正勝



ユリ (出典)イメージスタイル【フリー素材】

ユリの増やし方(出典)京都けえ園企画舎

むかご (出典) 園芸ナビ

私の巻頭言は固い内容が多いため、今回は、趣向を変えて書きます。私は幼いころから、天文や植物が好きな影響か、学生時代は主に理科教育(植物・環境教育)を学んでいました。その名残で、ガーデニングや野山での植物鑑賞をよくします。野山で見る植物で、私が好きなものは「ユリ」です。堂々かつ、「凜」とした姿は、素敵だと思います。

そのユリですが、以前、球根だけではなく、様々な方法で子孫を残していける方法があることを、書籍で知りました。

上の資料で示してありますが、球根の鱗片を1枚ずつ剥がして、それを差して植える方法。球根の上部にできる「木子」(きご)や、茎の節にできる黒い塊(むかご)を植えても、芽がでます。開花後にできる種でも同様です。

しかし、それぞれ発芽の時期も違い、むかごや木子では、開花には2~4年かかります。もちろん、手入れの仕方もそれぞれです。育てるコツも違うようです。

この話を以前知って以来、私は人の子育てと似ているなど感じています。大輪(大人)に

なるまで、我々大人は、必死になって子育てをします。国や行政は、未来の日本を創る子供たちへ「生きる力」を身に付けさせるために義務教育制度を整え、私たち教職員も毎日毎日、努力を積み重ねています。保護者の皆様にあっても、我が子の将来のために必死に働き、我が子に「真っ当な大人になってほしい」との願いの下、子育てに奮闘されていることと思います。しかし、ユリの生長以上に、子供が大人に成長するまでは、長い長い時間を要します。成長も人それぞれ。

何年も前の話です。学級経営に悩み、相談に来た若手教員にこう話しました。「自分一人で抱えない。自分の力だけでなんとかしようと思わない。周りの力を借りよう。子供を信じよう。とにかく今は、目の前の子供たちのために、全力を尽くそう。」と。ユリも子供たちも必ず「開花」します。でも、日々、育て続けていく地道な努力が何よりも重要です。

子供たちは、この街の大切な宝です。これからは保護者・地域の皆様と共に教育を進めていきます。お力添えを、お願いします。